



学院史編纂室の取り組みについて

学院史編纂室長 井上 琢 智

学院史編纂室の仕事には、大きく分けて3つあると思われます。もっとも大きな仕事は、その名称が示すように関西学院の歴史の編纂です。121年の関西学院の歴史の中で、『開校四十年記念 関西学院史』(1929)から『関西学院七十年史』(1959)までは10年ごとに刊行してきました。その後、『関西学院百年史』(1994-98)が刊行されました。加えて、おそらく日本で最初の学校史事典である『関西学院事典』(2001)を創立111周年記念事業として刊行しました。来るべき125周年に向けて学院史編纂の計画はありませんが、何らかの事業計画が必要でしょう。

この大きな目的実現のために必要な第二の仕事は、学院史編纂室に収集されている諸史・資料の整理・保存です。いくら貴重な史・資料が収集されていても、それらが整理・保存されていなければ無用の長物となります。十分な整理・保存がなされてはじめて質の高い史・資料となり、必要に応じて迅速に利用に供することができるからです。加えて多種多様な史・資料の収集も重要です。この仕事こそが学院史編纂室の規模と質をさらに高めることになるからです。しかし、この仕事は多くの方々とりわけ同窓、退職者のご協力がなければできないことです。そのために『母校通信』『学院史編纂室便り』などを通じて、諸史・資料のご寄贈を呼びかけています。

第三の仕事は、これらの史・資料を利用して、学院史だけでなく、キリスト教史、経済史、教育史、文化史、外交史など広い視点から調査・研究し、将来の学院史編纂に役立たせることです。現在、学院史編纂室には二つの共同研究グループがあります。「院長研究」と「関西学院の戦前・戦中・戦後」研究で、その成果は『関西学院史 紀要』(年報)や本誌『学院史編纂室便り』(年2回)などでも逐次公表しています。成果の公表は、先に述べた史・資料の発掘、収集にもつながります。ただ、残念なのは、この調査・研究に従事する教職員・学生が限られていることです。より多くの教職員の参加を望んでいます。なお、成果の公表は日本語だけにとどまりません。2009年4月から、英語による記事を関西学院の英文ウェブサイト定期的に提供しており、宣教師のご遺族、海外の関係大学などから高い評価を受けています。

この研究成果の教育への還元としては、学院史編纂にかかわる教員を中心に教務部提供の学際科目として「開学」学を毎年秋学期に提供しています。学生に関西学院の歴史を語ることで、開学の精神を伝える努力をしています。この取り組みは1995年から続けられており、「自校(史)教育」の先駆的な試みとして評価されています。

* * * * *

このような仕事を継続してきた学院史編纂室は、この流れをさらに広げるために今後以下の仕事に取り組む必要があると考えています。

第一に、法人合併によってなくなった学校法人聖和大学の歴史を編纂する仕事です。これは、すでに昨年度から鋭意取り組んでいます。

第二に、関西学院のキャンパス、とりわけ上ヶ原と聖和のキャンパスはそれ自体が歴史的文化財(時計台が国の「登録有形文化財」に昨年登録されたことは周知の通りです)であることを考えると、その建物、建造物、植物などに、必要に応じて、説明のパネルを作成することです。とくに関西学院に残る戦争を語る建造物などには、必要なことと考えています。できれば、開学キャンパス・ツアーの道標となれらと願っています。

第三に、すでに在学生に開講している「関学」学を東京丸の内キャンパス、大阪梅田キャンパス、関西学院会館などで提供することです。これには校友課や同窓会などのご協力が欠かせません。

最後に、学院史編纂室は、創立 125 周年をめぐりに関西学院大学博物館の一部に組入られることになっています。それによって、学院史編纂室独自の仕事がなくなるのではなく、学院史編纂の仕事がより幅広い視野から継続されていくようにしなければなりません。

学院史編纂室は、今後も教職員・学生・同窓生とともに歩む編纂室でありたいと願っています。



【奉安庫（学院本館2階・旧院長室）】

戦前、天皇と皇后の写真（御真影）と教育勅語が納められていた。御真影の安全が特に重視されたため、関西学院の場合、奉安庫の完成を待って1937年2月3日に御真影が下付された。

「御真影奉護規程」に基づき、教職員が宿直・日直し、元旦、紀元節、天長節、明治節の式典で、御真影奉拝と教育勅語の奉読が行われた。

奉安庫は、御真影の背が東に向くようつくりされている。それは、教職員・学生が時計台を背に、東を向いて宮城遥拝するのと同じであった。

【旧海軍地下壕】

1944年2月から敗戦までの間、海軍予備学校教育の場として、旧制中学部校舎（現総合体育館横のグラウンド）、予科校舎（現中学部本館）、グラウンド（現G号館周辺）、中央講堂、高等商業学部校舎（現経済学部）等が海軍省や川西航空機に貸与された。

グラウンドの地下に掘られたのが海軍地下壕で、電話付きの司令室や秘密文書庫となった。1988年の高等部校舎新築時に発見され、その後G号館新築の際も、その重要性から保存されている。ただ、安全上の問題もあり、地下壕の見学はできない。



【日露戦争戦捷記念碑】

同窓の寄付により、1909年3月10日、原田の森の礼拝堂下に建立。扇の部分に日露戦争出征者と寄付者の名が刻まれている。当初は「戦捷記念」と刻まれた28 瓏知重砲弾と共に置かれていた。

上ヶ原へのキャンパス移転に伴い、旧制中学部玄関前（現総合体育館横のグラウンド）に移設されたが、校舎取り壊しにより、現在地（高中部礼拝堂前）に運ばれた。

* 西宮上ヶ原キャンパスには、その他、戦争に関するものとして、中央講堂横に学院同窓戦死者の霊を弔うために建てられた旌忠碑（1940年2月完成）、G号館（国際学部）横のグラウンド西北に「平和よ永遠に」の碑（西宮海軍航空隊跡）があります。

関西学院史研究月例会の開催(春学期)

第29回 6月3日(木) 13:30-15:00 吉岡記念館3階会議室1(西宮上ヶ原キャンパス)
「関学サッカー一部創部100周年に向けて」岩崎 元彦(元サッカー部OB会長)

第30回 7月1日(木) 13:30-15:00 吉岡記念館3階会議室1(西宮上ヶ原キャンパス)
「傍流の学院史 思いつくままに…」岡 國太郎(元関西学院職員)